

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
我儘をし
苦勞をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分にできる
なにかをしてゆくのだ

令和7年 第5回 EM技術セミナー

U-net会員対象の第5回EM技術セミナーが11月7日にオンラインで開催されました。
今回は、ユニバーサルビレッジモデルプロジェクト進捗報告をはじめ4名の方が発表してくださったので、発表内容をご紹介します。

「ユニバーサルビレッジ岩手」

ユニバーサルビレッジ岩手 代表 高橋比奈子

ユニバーサルビレッジ岩手モデル事業の進捗報告をさせていただきます。

はじめに、ユニバーサルビレッジ岩手の目的ですが、1 つ目に、EMグラビトロン炭・塩を活用したEMグラビトン農法のモデル作り、そして2つ目に、U-net 岩手で活躍していた仲間や、新規の方々が、最新のEM技術を学ぶ場を創出し、後継者育成につなげたいというものです。年度途中で採択をしていただいたので、農法の実践としては1年目ですが、事業は2年目となっています。岩手県内のEM農家さんにEMグラビトン農法の実践とモデル作りを行うため、以下の方法でご協力いただきました。

ビニールハウスの四隅にEMグラビトロン炭・塩・EMを入れ結果をつくり、畝の下にEMグラビトロン炭1kg/m²、天然塩200g/m²入れました。水田は広いため、四隅にEMグラビトロン炭・塩・EMを入れて結果を作り、天然塩を全体に100g/m²施用しました。

名前	所在地	栽培品目	栽培面積	EM栽培	グラビトン農法	グラビトロン炭 (kg)		塩 (kg)	
ひまわり ガーデン	八幡平市	トマト (夏)	2,000㎡	2,000㎡	800㎡	1kg/m ²	800	200 g/m ²	160
		ほうれん草 (冬)							
武田さん	紫波町	米	50,000㎡	20,000㎡ (残りは葉面散布)	5,000㎡	50kg/枚	50	100 g/m ²	500
		トマト (夏)	3,000㎡	3,000㎡	300㎡	1kg/m ²	300	200 g/m ²	60
		アスパラガス			300㎡	1kg/m ²	300	200 g/m ²	60
		葉野菜			300㎡	200g/m ²	60	200 g/m ²	60
高橋さん	北上市	米	2,000㎡	2,000㎡ (今期から)	1,000㎡	50kg/枚	50	100 g/m ²	100
三浦さん	一関市	米	18,000㎡	15,000㎡	5,000㎡	50kg/枚	50	100 g/m ²	500
						合計	1610	合計	1440

【実際の栽培面積や数量】

それぞれの農家さんからの感想や結果をご紹介します。

八幡平市ひまわりガーデンさんの畑では、夏にトマトと、冬にほうれん草を栽培されています。夏場のトマトは、沖縄のEMウェルネス暮らしの発酵ホテルにも出しているものですが、さらに良くしたいとのことで、今回グラビトロン炭を活用した農法を実践されました。栽培面積は、2,000㎡、全てEMを活用されています。そのうち800㎡の面積でグラビトン農法を行いました。ビニールハウスの四隅に、EMグラビトロン炭、塩、EMを埋設し、トマトを植える畝の下にEMグラビトロン炭1kg/m²、塩200g/m²を入れ畝づくりされ、培養土にEMグラビトロン炭を使用したトマト苗を定植して栽培したところ、トマトの1から3段目の果実が大きく、味が良好だったことや、グラビトン区には鹿の侵入、足跡がなかったとの報告をいただきました。



紫波町、武田一男さんはお米を50,000㎡というとても広い面積で栽培されており、暮らしの発酵ホテルにも提供されています。また、トマト、アスパラガスや葉野菜を3,000㎡栽培されています。その内、水田では、5,000㎡の面積で、アスパラガス、トマト、葉野菜のハウスでは900㎡の面積でEMグラビトン農法を実践されました。

その結果、ハウスの四隅に結界のため、EMグラビトン炭、塩、EMを埋設したところ、大きな面積をご夫婦で作業していますが疲れにくくなったとお声をいただきました。アスパラガスは収穫が来年の4月ですので、報告はまた次に行いたいと思いますが、ハウスで栽培したブロッコリー苗は定植後の萎れがなく、ブロッコリーの糖度が冷蔵庫で保管している2週間の間に7.3から8.2と上がっており、EMを使ったお野菜は追熟して美味しくなり、日持ちもいいという事が証明されたのではないかと思います。また、ハウスで栽培しましたトマトをオーガニックエコフェスタ2026に提出し、分析いただいたところ、抗酸化力とビタミンCが他と比べて圧倒的な高さになり、食味評価も1～5段階あるなかで4という評価をいただきました。さらに、茄子は、下葉の枯れ上がりが早い株に対し、根元にEMグラビトン炭を施用後した結果、生育が回復したことや、ビニールハウスで毎夕、煙(チップ+ EMグラビトン炭)による害虫抑制を試みたところ、オンシツコナジラミ・アブラムシの発生が減少しました。

田んぼでは、EM区にはEMを葉面散布し(50L/反で3回)、グラビトン区には、EMを流し込み(300L/反)、四隅に結界としてEMグラビトン炭、塩、EMを埋設し、全面に塩100g/㎡入れ、EMを葉面散布(50L/反を3回)しました。お米を収穫後にグラビトン区とEM区のお米の味を比べたところ、グラビトン区のお米の方が、甘み、食感、香りなど圧倒的においしいという結果になりました。また、栽培された武田さんは、翌日お米をもう一度温めてなおして食べても、もちもちして、日にちがたった方がさらに美味しい感じがするといって驚いておられました。



北上市、高橋研さんの田んぼでは、お米を2,000㎡の面積で栽培されていたので、片方をEM栽培で、もう片方をEMグラビトン農法で栽培していただきました。高橋さんはお父様が90歳になり、今年から田んぼを引き継ぎまして本格的に農業を始めておられます。EM区にはEM活性液を月80L 使用し、他に有機入EM発酵肥料「コスモグリーン」、けい酸入EM発酵肥料「食べ農」を使用しています。グラビトン区は田んぼの四隅にEMグラビトン炭、塩、EMを埋設し、塩を100g/㎡入れています。こちらEM活性液を月80L使用し、コスモグリーン、食べ農も使用して栽培しました。その結果、グラビトン区の稲作の藻の発生が少なく、分けつが多く、出穂が早いという結果になりました。また、EM区とグラビトン区では、グラビトン区の方が田んぼ内の石が多く、例年は収量が低かったのが逆転し、大変驚かれていました。

- グラビトン区の方が分けつが多いのと、出穂が早かった。



EM区



グラビトン区

収量・まとめ

EM区	グラビトン区
6.9俵	9.2俵

※籾重

- グラビトン区で分けつが多かった
- 石が多いグラビトン区で収量が高かった。
- 今年は肥料が少なかったため、来年はしっかり追肥を行う。

一ノ関市の懸石農産、三浦克男さんの田んぼでは、お米を18,000㎡の面積で栽培されています。

三浦さんの田んぼでは、30年前から合鴨農法などを使って無農薬でお米を栽培されており、EMも活用して20年ほどになります。以前からEMと塩を使用していましたが、今回、グラビトン区(5,000㎡)では、四隅に結界として、EMグラビトン炭、塩、EMを埋設した後に、電柱と周囲を紐で囲むように結界を作りました。また、田んぼには天然塩を100g/㎡散布しました。その結果、EM区(15,000㎡)では7枚の田んぼのうち1枚に鹿の被害がありましたが、グラビトン区では鹿の被害はありませんでした。



また、三浦さんの勧めで以前からEMを活用している一ノ関の唐沢いちご農園では、今年9月にいちごの定植時に EMグラビトン炭30g/株に使用し、四隅に整流ブロックを設置しました。2棟あるハウスを、それぞれEM区とグラビトン区とで分けて栽培し違いを観察する予定です。収穫は来年1月になりますので、いちご農園のご報告もまたの機会にいたしたいと思います。

ユニバーサルビレッジ岩手のもう一つの目的としています最新のEM技術を学ぶ場をつくるとうことで、ユニバーサルビレッジ岩手事業報告会を11月6日に花巻市で行いました。会には岩手コンポストの皆様、EMに取り組まれている方が集まり、来年度の活動内容などを話し合う機会を設ける事ができました。また、11月5日にはユニバーサルビレッジ岩手EM勉強会を実施しました。集まった方は、武田さんのお米を買っておられる方で、ちゃんとEMIについて知りたいというお声がありましたので開催しましたが、24名の方が出席し、二次会として私の自宅で集まりEMグラビトン炭、セメント、塩を使って整流ブロック作りを行ったり、EM石けんのレシピをお渡ししたりすることができました。



以上で報告とさせていただきます。みなさまのお力添えに感謝申し上げます。

「EMでつながる いのちと土のユニバーサルビレッジ・谷汲」

EMで子供の未来を守る会 代表 小林 さや花

今年の7月に採択されまして、岐阜県の揖斐川町谷汲(旧 谷汲村)、岐阜県の西の方で活動を行っております。テーマとして「循環する暮らしの拠点作り」を行っています。一山越えないとコンビニがないくらいで、最寄りの駅も車で13分という田舎なのですが、その資源を生かして、食と自然の循環を体験できる学びと癒しの場を作っていきたいと思っています。もう一つは、都市と農村の架け橋となる持続可能な暮らしの実践モデルとして発信していくことを目的としています。今年度の目標の7月からの進捗状況をご報告します。



まず、井戸についてですが、井戸自体の工事は随分前に終わっており、最近、蛇口をひねれば井戸水が出るように工事が完了しました。井戸水を利用し、液肥混入器「エフピーエス プラス」にてEM活性液を約200倍希釈し、畑に灌水ホースを利用して一反の半分ぐらいの畑に散布しています。この土地はもともと田んぼだったようで、石が多くて非常に硬いです。稲科の雑草が多くて掘るのも苦労していますが、EMの密度を高めることで土壤改善を進め、土が柔らかくなることを期待しています。



しかし、井戸水に問題点が発生しました。せっかく掘った井戸ですが、夏季は安定して水が出ていたものの、冬季に入り水位が下がって、ほとんど水が出なくなりました。災害時に近所の方へ水を供給することも目的の一つだったのですが、今は水道水に切り替えて散布している状況です。災害用の「良質な水の給水所」としてのシンク設置は、井戸水の状況を踏まえ再検討中です。

次に、U-net から貸与して頂いた百倍利器によるEM活性液の生産体制を整えたことで、安定的に、そして大量のEM活性液生産が可能になりました。200リットルのタンクなのでたくさん作ることができ、イベント参加者や来客の方が自由に汲んで持ち帰ったり、炭作りやEMぼかし作りに活用したり、畑への散布にと大活躍しています。

また、EM竹炭作りも行っています。以前からある無煙炭化器を使い、近所の竹林から取ってきた竹を燃やし、消火する際にEM活性液を使っており、百倍利器によって作業効率が大幅に向上しました。

イベントの報告です。9月28日に「生ごみ堆肥を使った土づくり講座」を開催しました。EMぼかしで堆肥化した生ごみを土に混ぜ込む座学と実践を行い、23名の方にご参加いただきました。名古屋、京都、大阪、山梨、神戸、浜松など遠方からも多くの方が来てくださいました。この畑には玉ねぎを植える予定で、そろそろ植え頃です。





同日、芋掘り大会も行いました。5月に植えた紅はるかの苗150本の半分を、参加者の皆さんと収穫しました。イベントで掘った畝はEM竹炭を入れていたおかげで収量が多く、皆さん喜んでいましたが、後で掘った隣の畝は炭の量が少なかったためか、明らかに収量が少なかったです。苗の違いもあったかもしれませんが、炭を入れることで年々土が柔らかくなっていると感じています。

同じ日に、EM生活の石川さんを講師にお招きし、EM講座とEMぼかし作りも行いました。百倍利器で作った活性液を使い、参加者全員でぼかし作りを体験し、1kgずつお持ち帰りいただきました。皆さんから写真付きで経過報告をいただき、順調に発酵が進んでいるようです。交流会ではEMカレーを皆で食べました。



田んぼも一反の半分ほどやっており、10月13日に9名でササニシキを収穫しました。ここは10年ほど無肥料で続けてきたためか収量が減ってきているので、来年は活性液やEMぼかしを入れてみたいと思っています。

最後に果樹園の報告です。プラム、いちじく、みかん、甘夏、ぼんかんが植わっていますが、冬越しに失敗して枯れてしまった木もあります。雪が降る場所なので、もう少し寒さ対策を強化する必要があると感じています。水源がなかったため、雨水をためるバケツを設置し、活性液やぼかしを撒いています。



7月からスタートし10月までに様々な実践を行い、循環する農的暮らしの基盤が着実に形になってきました。今後の活動の方向性として、井戸水の安定供給方法の検討すること、EM×炭×ぼかしの三位一体で土壌の底力を回復して稲の減収などに対応すること、果樹園の再整備と水源確保を行うこと、イベント参加者100名以上を目指し、交流と学びの場づくり、そして“循環する暮らしのモデル”として全国へ発信していきたいと思います。

「身体と地球の健康を実現するEM生活」

EM研究機構 國廣 真里枝

埼玉の朝霞厚生病院のEMプロジェクトに2018年から携わっています。総合診療科で患者様と接する中で、健康と予防医学に対してEMの親和性が非常に高いと実感し、健康講座を行う「つながる健康サークル」を2020年に発足しました。今年で6年目になります。本日は、つながる健康サークルの内容や、私のEM生活から得られたことについてお話しします。

健康の定義は人それぞれですが、EM生活を少しでも取り入れることで、今日より明日、より健康になれるという思いで活動しています。また、私たちの健康を支えている地球環境も大事にし、未来を守っていければと考えております。

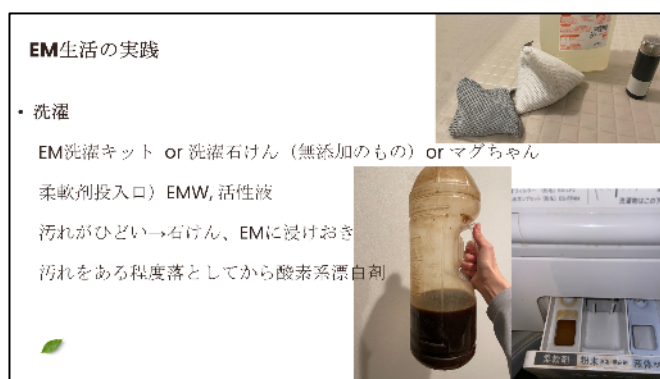
EM生活を実践すると、身体も環境も健康になり、パフォーマンスの向上が期待できます。元気にアクティブに動けるようになり、長い目で見れば健康寿命が伸びる可能性も高まるでしょう。それによってEM生活を実践できる時間が増え、地球を救う大変革の達成度も向上します。日々の生活の中でのEM活用の選択が非常に重要だと実感しています。

地球環境への影響の一例として糞尿を挙げますと、最も影響が大きいのは家畜で、次に人間のし尿排水、そして野生生物と続きます。地球上の哺乳類の重量を見ると、野生の哺乳類がわずか4%に対し、人間が36%、そして畜産動物が最も多い60%を占めています。この畜産動物の糞尿や、飼料を作る過程で環境負荷がかかっていると考えられます。この糞尿による環境汚染に対応するには、肉食を少し減らしてみたり、美味しい野菜や大豆ミート、油揚げといった満足感のある大豆製品などに置き換えることが考えられます。また、EMを使って畜産をされている方の製品を選んだり、前回のセミナーにて福居さんも仰っていたように、EMを排水溝に流していくことも対応になります。「買い物は投票だ」とも言われますが、未来に残したいものは何かを考え、日々食べるものを選んでいくことが大切です。

私の生活や「つながる健康サークル」でのEM生活の実践例をご紹介します。EM生活の特徴は、無添加で本物の技術と親和性が高いことです。今回は主に食に関してですが、衣類や住まいにも活用できます。まず無添加についての一例ですが、除菌・消臭製品の中には、慢性閉塞性肺疾患(COPD)になりやすくなる成分が含まれていることがあります。除菌シートや汗ふきシート、漂白剤、お尻拭きなどにも含まれていることがあるため、日常的に使うものには注意が必要です。本当に除菌が必要な時に的確に使うことは大切ですが、日常的に多用することには問題があるかもしれません。

洗濯の際は、EM洗濯キットを入れたり、無添加の洗濯石けん、マグネシウムなどを使います。EMは柔軟剤の働きをさせるため、すすぎの時に投入されるよう、洗濯機の柔軟剤投入口に入れてください。汚れがひどい場合は、石けんやEMにつけ置きしてから洗うか、酸素系漂白剤を使用すると良いでしょう。

お掃除やトイレには活性液を、食器洗いにはEMの廃油石けんや無添加の石けんを使うと手荒れも防げます。また、EM栽培したヘチマを乾燥させて作ったタワシは、食器洗いや体を洗うのに使えます。最初は硬いのでかかとの角質落としにもなり、だんだん柔らかくなっていきます。お風呂に活性液を入れると体が温まりやすくなります。



EMを使った家庭菜園や、調味料に良いものを使う、EMで育った肉や魚を選ぶといったことも実践しています。調理の際にEMX GOLDを入れたりスプレーすることもあります。お米のとぎ汁は活性液にし、生ごみは発酵肥料にして土づくりに活用します。生ごみ発酵肥料で土を作り、そこで育った野菜を食べ、また生ごみが出るという良いサイクルが生まれます。とぎ汁を毎回活性液にしていると、排水溝に流すことに罪恶感が出てきますし、生ごみも肥料にしていると捨てるのがもったいないと感じるようになります。

歳以降は腸内細菌叢が変動しにくいと言われていますが、食事や生活改善によって劇的に変わりました。一番最初に測った時は肉食系の菌が多かったのですが、それがだんだん減り、草食系の菌が増えています。今後も継続して検査を行います。

今年、杉本先生の脳ドックを受けました。杉本先生は「40歳になったら一度は受けて、何かあれば継続的に見ていくと良い」と仰っていましたが、今回検査を受けて結果を詳しく伺いながら先生のお話も聞けて、非常に学びの多い機会でした。結果は「異常なく綺麗ですね」と言っていました。

このEM生活は、まだまだできる取り組みが色々あるので、どんどん深めていきたいです。日々の実践を続け、やることを増やしていくこと、講座の材料もEMで栽培するなど、トータルでEM化していければと考えています。そして、それを人に伝えていく、教えるということです。聞いているだけだと多くを忘れてしまいますが、人に伝えることで知識の定着率が90%近くまで上がると言われています。教えることが自分のためにもなっていると非常に感じています。「つながる健康サークル」では、会員さんに講師になってもらう取り組みをしています。皆様の得意分野で講座を開いていただき、お互いに楽しく繋がっていく試みです。「身体と地球の予防医学アドバイザー」と「インストラクター」の認定制度もあり、学んで伝えていくコミュニティを作っています。講師会員やボランティアスタッフも募っており、「自分らしく健康に人生を一緒に楽しみましょう」という活動をしています。

健康は目的というより、人生の目的を達成するための一つの手段です。ですから、全部やろうとするのではなく、やりやすいものから取り組んでいくことが非常に重要だと思います。会員の皆様の中には、「もっとこんなEM生活があるよ」というアイデアが沢山あると思いますので、ぜひ講師会員にもなっていただけたら嬉しいです。

つながる健康サークルの会長でもいらっしゃる杉本一朗先生の書籍が出版されました。先日、出版記念講演をZOOMとアーカイブ配信を行い、杉本先生に書籍に関するお話いただき、質疑応答もしていただきました。今後とも、杉本先生の講演を行っていき、ますます健康になってEM活用をどんどん行っている方々が増えていく活動を行っていききたいと思います。



健康生活の羅針盤を持ち、
自分に、身近な人に、
アドバイスを！

2026年
身体と地球の予防医学
アドバイザー
インストラクター

健康に関わる、食、苔玉菌技術、心と身体のある方などなど、
あらゆる分野の健康講座を開講。6年間で約230回の講座実績があり、
ますます知恵が蓄積し、受講生の方も年々レベルアップしています🌱等
1月から12月まで、健康講座を受講し、12月に試験が行われ認定証を卒業！

受講生募集中！
2025/12/17
10:00-
無料説明会
アーカイブあり

健康しなみはてな

楽しくEM深化、健康追求



身体と地球の予防医学アドバイザー
インストラクター
学んで伝えていくコミュニティ形成



ボランティアスタッフ
講師会員
サークル活動に携わりながら学ぶ・伝える



←活動内容などはこちらから

つながる健康サークル
Facebook

講座などのご案内
ボランティア・講師会員に
ご興味がある方
お問い合わせはこちらから→

Sustainable.peace.world@gmail.com



利権プロバガンダ医学から
「病まない身体」の新医学へ

なぜ日本人だけが
“病気をやめられない”
のか？

上

医療の
“常識”を問い直し、
“病でない身体”を
科学する時代へ

杉本一朗
Ichiro Sugimoto

「腸内フローラ × 意識 × 周波数」
共鳴場医学の夜明け

なぜ日本人だけが
“病気をやめられない”
のか？

下

細胞・微生物・
環境が「つながる」
新しい
“調和の医療”へ

杉本一朗
Ichiro Sugimoto

「生成 AI をEMの勉強や普及に活用する」

EM研究機構 新谷 正樹

みなさん、こんにちは。生成 AI とは、蓄積されたデータからパターンや特徴を学習し、新たなテキスト、画像、動画など新しいコンテンツを自動で生成する人工知能のことです。ここ数年で生成 AI の普及は急速に進んでおり、生成 AI を日本では個人の 27%、企業の 50%が利用しています。

生成 AI 先進国の米国では個人の 69%、企業の 85%が利用しており、お隣の中国では個人の 81%、企業の 93%が生成 AI を利用しています(図1)。

図 2 には無料で使える主な生成 AI の種類と分類が出ています。無料なので皆さんの中にも利用されている方が結構いらっしゃると思います。今回、紹介するのは NotebookLM というアイデアの整理や情報の把握を支援する、AI 搭載のリサーチアシスタントです(図 3)。

EMのことを勉強している時に、「EMのことをもっと学びたいけど、専門書や論文を読んで理解するのは大変」、「まして、英語の論文なんて難しくて読めない」、「誰かが動画で重要なポイントを解説してくれたら、もっと分かりやすいのに」と思ったことあると思います。NotebookLM を使えば、EMの論文の内容を自動で AI が理解・要約し、お願いすれば各種レポート、音声解説や動画解説を作成してくれます。

ベラルーシ放射線生物学研究所の研究者らと共同研究を行い書いた論文 "Influence of Effective Microorganisms on the Activity of ^{137}Cs in the Soil Contaminated due to the Accident on the Chernobyl NPP"には、人類がこれまで解決できていない放射能汚染問題を、EM技術を活用すれば解決できることを示唆した画期的な研究成果が書かれています(図 4)。

しかしながら、英語の論文であり、専門用語も使われているので、この分野に詳しくない人には理解が難しく、説明する私たちにとっても、短時間でわかりやすく説明するのは簡単ではありません。ところが、先ほど紹介した NotebookLM を使えば、論文の重要なポイントをまとめて、理解しやすい日本語での解説動画を無料で作成してくれます。

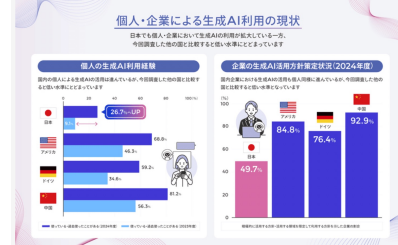
では、この論文の解説動画は12月に U-net 事務局から配信される令和7年第5回EM技術セミナーダイジェスト版で視聴できますのでご覧ください。または、比嘉先生の DND の記事「第 220 回 AI によるEMの放射能消滅に対する評価」をお読みください。

https://dndi.jp/19-higa/higa_220.php

この様に生成 AI を活用すれば、難しい内容をわかりやすくしてくれますので、勉強するのに役立ちます。EMのことをまだよく知らない人にもわかりやすく「伝える」ことが可能となります。生成 AI は無料で使えるものも多いので、是非、色々と試してみてください。

図 1

2025/7/11 (月)
生成AI「個人利用」26.7%に上昇——それでも米中との差は歴然【総務省・情報通信白書】



https://ledge.ai/articles/generative_ai_personal_use_japan_2025

図 2

無料で使える主な生成AIの種類と分類

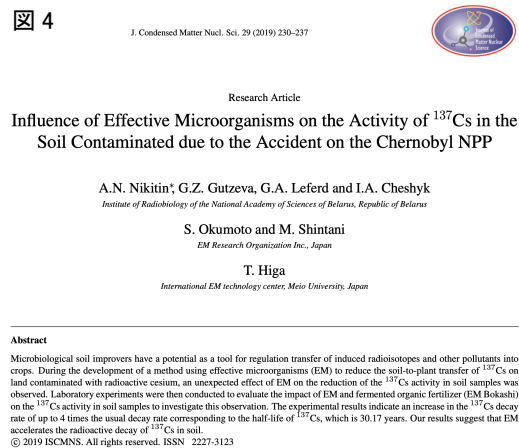


https://ledge.ai/articles/generative_ai_personal_use_japan_2025

図 3



図 4



「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

本日も発表者の皆さまありがとうございました。

まず高橋さんからのユニバーサルビレッジ岩手の報告ですが、これは、沖縄のEM研究機構で国からの助成金を使って実施しているユニバーサルビレッジモデル事業を運営している訳ですが、このプロジェクトで集約された方法を、農業のなかで実現しようと岩手でも取り組んでいます。岩手では、前もってEMを使っている農家がさらに勉強して、ユニバーサルビレッジ岩手として取り組んでいます。しかし、東北では岩手県を中心にEM農家が多くいますが、ひと昔前の情報で留まっており、限界突破ができず、また農家やEMユーザーが交流できない状況でした。そんな中で、高橋さんからユニバーサルビレッジ岩手の拳手がありましたので、再度、岩手県のEM農家を中心に進めることになりました。

ユニバーサルビレッジ岩手のベースは、EMグラビトン農法で、EMグラビトン炭をきちんと使って作物生産することです。従来は竹炭等を使いますが、EMを浸み込ませた材料を使い、EMグラビトン炭を1%くらい混和して炭作りをすると、機能性の高い炭が出来上がります。また、EMXGOLDを使うことで、炭の機能性を高レベルに維持することができます。EMグラビトン炭を中心に、農業の実用的な水準を検証することも本プロジェクトの一つとなっています。

今日の報告を見てみると、ねらい通り各農家での成果が上がっていることが分かります。EM技術の水準を上げ、パターン化することを見せることで、横展開できる成果が現れています。塩と炭を活用したEM結界をしっかりと設置したうえで行っていますので、結界内で働いている農家さんの疲労も少なく、生産者が元気で、品質の良い生産物が作れ、環境も良くしながら、併せて消費者の健康にも貢献することができます。すなわち、農業の大事な基本を実行できるということです。今回の報告では、従来の農業のなかにEMグラビトン農法が組み込まれていますが、これから先の課題としては、不耕起の連続栽培にチャレンジすることです。この方法を実践すれば、土は常に改良されますし、また、結界の1ヶ所を毎年1回EMXGOLDを吹き付けて結界の機能性を維持することで、結界内(露地でもハウス内でも)がエネルギーで満たされます。

最近では、EMの量子的な性質は、煙にも乗せることができることが分かっていますので、実用的な検証を沖縄のサンシャインファームやEMユニバーサルビレッジ北中城の圃場でも実施しているところです。特に、ハウス内では温室コナジラミやダニ等が発生しますが、EM煙霧(煙)を実施することで、これらの被害の発生は極小のスポット的や最小限となり、広がることはありません。EM煙霧を上手に誘導することで、農薬対策にも対応できると確信しています。

またご存知のように、岩手県には岩手コンポスト株式会社があり、EMグラビトン炭を製造していますので、これらの最新EM情報を集約して、従来の農業の姿を変えて行こうと考えています。一般的に農業というと、耕して～除草して～薬を撒いてと、環境破壊を行なっている産業となっていますが、これまでの課題を解決しながら、総合的な循環のなかに組み込みながら、年々土壌を改良し、生産者(農家)も消費者も健康になるような農業体系にしなければなりません。

総合的な循環のアイデアは、國廣さんの報告でも見られましたが、いわゆるEMの深掘りを実践した結果として、人と人だったり、社会のつながりだったり等、総合的な循環となり、すべてのものが健全に発展していることを示しています。この大きな循環にはマイナスの要因がなく、すべてが繋がって理想像を実現できるようになっています。すなわち、ひとつの公式的な展開をまとめたと言えます。このようになると、行う事がすべて限界突破的となります。

2題目に報告のあった小林さん、ユニバーサルビレッジ谷汲ですが、内容はすごく充実しています。EMを核として、地域の活性化や参画する皆さんが、自ら賢くなりながら良いことを行ない、しかも総合的な循環のなかに組み込んでいることが分かります。本日の報告で示されているキーワード的なことは、すべてのあらゆることを循環させながら、次元の高い有用なものに変えて行くことにあります。EMを活用することで、総合的な循環が量子的機能を持つようになります。量子力学は、頭で理解しようとすると難しいですが、実際にその効果を使ってみると理解できるようになります。例えば、EM結界も物質ではありませんが、自分で設置して効果を確認することです。実際に体験して理解する方法が近道です。EM結界は維持管理することが必要ですので、先述したように、少なくとも年に1回はEMXGOLDで機能性をアップさせることが重要です。

このセミナーで何度か繰り返していますが、EMやEM技術は、ケアすること＝管理しながら循環に乗せて環境や人間の健康にプラスになるような方向性がポイントです。

このような視点から、ユニバーサルビレッジ谷汲の現場では、まだ従来のEM活用法にとらわれているようなので、EMがより働きやすいような方法にチャレンジすることが必要です。また、塩入EM活性液を上手に活用することで、現場の状況がガラッと変わります。岩手県の農家でも塩入EM活性液を使っていますが、塩を活用することで、EM結界内にエネルギーが充満し、原子転換的な機能も発現できると考えます。EMの乳酸菌と光合成細菌の組み合わせは、量子的もつれ(エンタングルメント)ですべてのものをつなぎ、量子うなり(コヒーレント)によってエネルギーを集約し、高めてくれます。さらに炭があることで、バレー流と組み合わせられます。バレー流は、電気を使うと電気のゴミのようなものが発生しますが、バレー流があると、この電気のゴミのようなものが解消し、新たに使える電気となります。炭にはこのような性質もあるので、炭を上手に活用することで農作物が多く収穫できた等の報告があり、なかでも、茨城県の北浦みつば連合出荷組合では積極的に炭を活用し、良質なサツマイモ生産増に成果を上げています。

ユニバーサルビレッジ谷汲の皆さんは、まだEM歴の浅い方も多いかと思いますが、EMの最新情報を取り入れ、追求しながら楽しく学んでいます。また、百倍利器も設置したことで、EMですべての課題を解決するという覚悟ができましたので、大いに飛躍することが期待できます。参画するすべての人だけでなく、近隣の農家も巻き込みながら大いに発展するというベースが出来上がっていますので、楽しみながら活動されることに期待しています。

最後に、AIによるEM研究論文の解析ですが、我々は福島で実際に放射能汚染対策に長年取り組んできました。今では、福島の放射能汚染の話題はほとんど聞こえません。除染土の活用もニュースになっています。結論として、福島の放射能汚染は実際消えている訳です。これは、EMの量子力学的性質であるエンタングルメントとコヒーレントの流れと、最大のポイントはトンネル効果によるものです。汚染の原因となっている、いわゆる邪魔している電子を、EMの量子的性質により発現するトンネル効果によって整流し、汚染が無くなると考えられます。今日の報告にあるように、あらゆるものを固定せずに循環のなかに組み込むことで、有害なものも有用なものとして活用できるようになります。今日の発表を参考に、楽しく大いに活動していただければと思います。

★令和7年第1～4回EM技術セミナーダイジェスト版動画の見逃し配信を行います！

今年、開催されました第1回～第4回EM技術セミナーダイジェスト版動画の、見逃し配信を下記通り実施いたします。動画視聴を見逃した方や、年内途中で入会された方も1年分のEM技術セミナーの動画がご覧になれます。

★令和7年第5回EM技術セミナーダイジェスト版 ならびに令和7年第1回～4回EM技術セミナーダイジェスト版 動画視聴のご案内（会員限定）

11月7日に開催されました第5回EM技術セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、好きな時間にダイジェスト版動画を視聴できます。※このダイジェスト版動画視聴のお申込をされた皆様には、令和7年第1回～4回のダイジェスト版動画のURLも一緒にお送りいたします。視聴期間は1ヵ月を予定しております。

【配信期間】 12月26日(金)の朝9時～2026年1月31日(土)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は**12月22日(月)**までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局(info@unet.or.jp)へメールにてご連絡をください。

視聴用URLは12月25日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

事務局からのお知らせ

■U-net通常総会現地参加者向けホテル予約開始のお知らせ

来年2026年2月26日(木)に沖縄県にて開催されますU-net第27回通常総会へ現地参加をご予定いただいています会員の皆様へ、ホテルEMウェルネス暮らしの発酵ライフスタイルリゾートより、お得な宿泊プランをご用意いただきました。

第27回 U-net 通常総会へ沖縄にて、現地参加をご計画されており、宿泊プラン利用を検討されています正会員様は U-net 事務局へお電話または、メールにてお問合せいただきますようお願い申し上げます。折り返し、事務局より、U-net 総会参加者限定宿泊プランのお申込案内を、郵送またはメールにてお送りいたします。予約プランについて、URL の送信を希望される方や、ネットからのご予約が難しい方、また何かご不明な点などございましたら、U-net 事務局までお気軽にお問合せください。

なお、第27回 U-net 通常総会は、**2026年2月26日(木)13時30分**より開始される予定です。例年の開始時間より30分早い時間ですので、現地入りの時間にご注意ください。

【問い合わせ先】 U-net 事務局 TEL: 098-923-2600 E-mail: info@unet.or.jp

★令和8年第1回EM技術セミナー開催のお知らせ(会員限定)

令和8年第1回EM技術セミナーを令和8年1月16日(金) 14時～16時に開催します。

セミナーへの参加申込は令和7年12月8日(月)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始しておりますので、お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。お申込みの締め切りは**令和8年1月15日(木)**です。

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※令和8年第1回EM技術セミナーはU-net会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない事がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。例) 姓

 名

ウェビナー登録についてご不明な点がございましたら、U-net事務局にお問合せ下さい。

問い合わせ先 EMail: info@unet.or.jp 電話番号: 098-923-2600